



東北のお正月を応援

プロジェクト

2012-2013



事業実施のご報告

あたたかいご支援ありがとうございました。
東北の8つの場所で、たくさんの笑顔の花が咲きました。

寄付
件数 68 件

寄付金
総額 1,083,000 円

❀ プロジェクトの趣旨

「東北のお正月を応援プロジェクト」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の3県を対象に、2012年12月1日から2013年1月31日までの2か月間に仮設住宅団地などで行われる年末年始の行事に対して助成し、新たなコミュニティの活性化や生きがいづくりをサポートするものです。

❀ 寄付受付期間

2012年7月1日から11月30日までの5か月間

❀ 助成

8つの事業に総額970,000円を助成しました。

※寄付金1,083,000円のうち、113,000円を管理経費として人件費や印刷代に使用させていただきました。

❀ 助成決定方法

助成事業の公募を行い、9つの事業の申請がありました。2012年12月17日に外部審査員3名からなる審査会にて、申請事業の採否とそれぞれへの助成額を決定しました。



一般財団法人 地域創造基金みやぎ



新年お正月交流会

団体名：気仙沼たすけあいの会

事業地：宮城県気仙沼市

助成額：20,000 円

❀ 団体からのありがとう

寄付してくださった皆様のおかげで無事に餅つき交流会を開催することができました。みんなで協力して作ったおしろこ、お餅は美味しかったです。

1月20日(日)に市内の条南中学校仮設住宅団地でおしろこを食べながら新年を祝う交流会を行いました。年配の女性を中心に約30人が参加、みなで餅つき機で餅をつき、おしろこやきな粉餅をつくって交流しました。参加者のひとりがじゅうねん(えごま)を持ってきてくれたので、すり潰してじゅうねん餅もつくりました。作ったお餅は参加者で食べるとともに、同じ仮設住宅のなかで



◀おしろこづくりの様子

参加できなかった世帯65軒に配布しました。たすけあいの会のスタッフが手伝うことがほとんどないくらい参加者の皆さんが積極的に作って、交流していたのが印象的でした。去年は新年を祝うどころではなかったため、今年は皆さん生き生きと楽しまれた様子でした。同様に他2か所でも餅つき交流会を開催し、計3か所でのべ60名が参加しました。

平成の森新年会

団体名：平成の森アート実行委員会

事業地：宮城県南三陸町平成の森仮設住宅団地

助成額：100,000 円

❀ 団体からのありがとう

皆様のご厚意がこどもたちのそしてお爺ちゃんお婆ちゃんの笑顔となって咲きました。「応援してよかった」と言っていただけよう地域の再生により一層努力したいと考えています。

1月5日(土)に南三陸町平成の森仮設住宅団地で自治会主催の新年会を行いました。こどもから80代のお年寄りまで約80名が参加し、カラオケ大会に、方言で演歌を歌う地元歌手のミニコンサート、はずれくじなしの抽選会という盛りだくさんの2時間でした。お酒なしの昼間に開催した新年会でしたが、カラオケでは曲に合わせて踊りだすお母さんも。隣り合う仮設住宅



◀ご近所さんと笑顔で乾杯!

2カ所の合同イベントとして実施したので、新年会を機に、これまで話したことのなかったご近所さんとも声をかけあうようになったと聞きました。用意されたイベントに参加するだけでなく、被災した方々が主体となって自治会活動に取り組むきっかけになったようです。

波伝谷の文化財を復興に活かそう！新春交流会

団体名：波伝谷仮設住宅団地自治会

事業地：宮城県南三陸町戸倉地区

助成額：130,000 円

❀ 団体からのありがとう

このような会を実施できたのも寄付者の方々のたくさんのご篤志があつてのことでした。ただの新年会ではなく、とても意義深い集まりが開催できました。本当にどうもありがとうございました。

1月13日(日)に南三陸町戸倉地区波伝谷住宅自治会が主体となって、波伝谷集落がもつ民俗的・文化的資源を復興にいかすための意見交換会と交流会を行いました。当日は仮設住宅入居者、震災前に波伝谷集落に住んでいた方、波伝谷集落の民俗についての専門家など75名が参加しました。

震災前の集落の様子を記録したドキュメンタリー映像の



◀震災前の集落の映像を見る様子

上映も2度行われました。津波で失われてしまった景観を懐かしみ、いまは町外に転出した集落の元住民の方々もたくさん駆けつけたそうです。

地域のきずなと、コミュニティが潜在的に持っている力と資源を住民が再確認した、心に深く染み入ってくる交流会になったとの感想が寄せられました。

おんたちの小正月から明日の暮らしを考える

団体名：東松島市小野駅前応急仮設住宅自治会

事業地：宮城県東松島市

助成額：190,000 円

❀ 団体からのありがとう

これまでお世話になった方々との親交を深めながら、被災者本人たちが主体的にイベントを主催、実施できたことは、今後の復興に向けての大きな自信となりました。どうもありがとうございました。

1月20日(日)に東松島市小野駅前応急仮設住宅団地にて、仮設住宅住民同士とボランティアとの交流のためのイベント「2013おののふゆまつり」を開催しました。当日はピザややきとりのテントが6張でて仮設住宅団地が屋台村のような雰囲気。また集会所ではネイルケアや継続的に通ってきている神戸出身のアーティストによるコンサートが行われました。コンサート終了後に行わ



◀様々なテントが並びました

れた茶話会では、阪神淡路大震災経験者のアーティストから当時の経験が共有され、仮設住宅入居者やボランティアも交えて仮設住宅から出た後の暮らしをどうしていくかが話し合われました。

イベントはボランティアがするものという概念から、自分達で楽しもうという姿勢に自治会の皆さんの姿勢が変わったことが大きな成果でした。

お正月 餅つき大会

団体名：元気っこ山元
事業地：宮城県山元町
助成額：50,000 円

❀ 団体からのありがとう

今の被災地が抱えるもやもやを払い除けるのは子どもたちの笑顔しかないと考えます。子どもたちの笑顔がお父さんやお母さんの笑顔を誘い、おじいちゃんやおばあちゃんの活力を導くと考えます。

12月28日(金)に山元町役場内ふるさと伝承館前広場にて、町内の小学生、中学生、近隣の住民とともに餅つきを行いました。

子どもたちが育てた130キロものもち米を送ってくださった、愛媛県教育研究会伊予支部の方々も愛媛から駆けつけました。

参加者数はスタッフも含めて120名程度。臼を6台同時



◀ 餅をつく
子どもたち

に使用し、杵をつく掛け声とともにお餅をつく音が鳴り響いて、活気あふれた餅つきとなりました。

ついた餅は、あんこ餅やきな粉餅、ずんだ餅にして皆で美味しく食べました。

参加した子どもたちの楽しそうな笑顔がイベントを彩り、それを見る大人もとても元気づけられた餅つき大会でした。

新しい年の夜空に、元気と希望の華を咲かせましょう!! ~自立と復興を目指して、新年花火大会

団体名：公共ゾーン仮設住宅団地ふれあいの会
事業地：宮城県亶理町
助成額：190,000 円

❀ 団体からのありがとう

この花火は、私たちがこれから多くの困難を乗り越えて、再び美しい故郷を取り戻し、家族と地域がひとつになって力強く自立することができたときには懐かしい記憶として残る貴重なものです。心からの感謝を申し上げます。

12月31日(月)から1月1日(火)にかけて亶理町公共ゾーン仮設住宅団地にて鎮魂のための新年花火大会を行いました。花火大会に寄せられた130名からのメッセージを読み上げ、年越しのカウントダウンのあと、花火約200発を打ち上げました。

会場では年越しそばや甘酒をふるまわれ、参加者200名余がそれらで暖をとりながら花火を見つめていました。



◀ 夜空を彩る
約 200 発の花火

公共ゾーン仮設住宅団地には約500世帯が暮らしており、その住民の方々が花火を見に出てきて、一年間お世話になったお礼、新年のあいさつを交わし合う様子が見られました。

参加者がひとつの場所に集まって同じ花火を見つめながら新年を迎えたことで、共に頑張っていこうという連帯感を持つことができました。

南相馬お雑煮フェスティバル

団体名：みんな共和国
事業地：福島県南相馬市
助成額：190,000 円

❁ 団体からのありがとう

私たちは震災後にできたまちづくりの小さな市民団体なので、気持ちは充実しているのですが、資金面での苦労は絶えません。助成をいただけたおかげで開催にこぎつけ、成功をおさめることができました。とても感謝しています。

1月1日(火)から1月31日(木)までの一か月間、南相馬市内の飲食店26店舗がそれぞれ独自に考えたオリジナルお雑煮を販売する「南相馬お雑煮フェスティバル」を開催しました。

各店舗をまわってスタンプを集めるスタンプラリーも実施、お雑煮をきっかけに飲食店とお客さん、そしてお客さん同士の会話がうまれ、町が活気づく機会になりました。



◀各店舗独自のお雑煮を販売

た。福島県内外の様々なメディアに取り上げられ、お雑煮フェスをきっかけに南相馬市を訪れた人も多かったようです。

風評被害に苦しむ飲食店の皆さんの継続の期待も強く、来年以降も続けていくことができれば、南相馬市にも新しい行事・名物・グルメが生まれる契機となると思います。

お正月「あつまっ会」

団体名：特定非営利活動法人まちづくりNPO 新町なみえ
事業地：福島県二本松市
助成額：100,000 円

❁ 団体からのありがとう

原子力被災地ではまだまだ復興に至っておりません。長い歳月がかかります。被災者を励まし、支援する活動を支えてくれる多くの方からの尊い寄付に、感謝申し上げます。

1月24日(木)に二本松市で、浪江町から二本松市に避難して仮設住宅などに暮している被災者約80名の交流会を開催しました。

交流会では、参加者の皆さんと一緒に餅つきをし、あんこ餅、きな粉餅などにして食べながら交流、その後二本松市の農業の専門家から放射線と農業についての講話を聞きました。参加者は、講話のなかで紹介された農



◀餅を食べながら仲間と交流

地を放棄せずに耕作することでできる除染方法や自らが関わりながら農地を復旧させることに強い関心を示している様子でした。

故郷から離れ避難生活を余儀なくされている方々が明るく前向きな表情になれた、またに年の初めの交流会に相応しい内容でした。二本松市の地元の方々との交流が広がったのも大きな成果です。

❀ 支援者一覧

お名前の公表に同意くださった方のみ、寄付受付順にご紹介します。(敬称略)

児玉光也、高橋陽佑、川原繁人、川原睦人、鈴木祐司、岡崎朱美、浜原弘也、北村清治、加藤辰彦、添石幸伸、小島正、深川浩一、吉田和子、森田麗子、池田規子、尾崎孝子、大川真理子、大川隆三、上田京子、吉田郁子、小笠原佑理、千葉県山武市役所有志、阿部正、柿崎真、中作由美子、野添博、高光治秀、小林芽里、福田文、原田麻里子、橋本真人、神戸学院大学大学祭中央実行委員会、山田泰久、河合将生、三浦半島地区労働者福祉協議会
他 33 名の方々 あたたかいご支援、誠にありがとうございました。

❀ プロジェクト担当者から

「東北のお正月を応援プロジェクト」にご寄付いただいた皆さま

初めまして、地域創造基金みやぎで本プロジェクトを担当しました福田文と申します。

本プロジェクトの趣旨に賛同し、寄付に支援の気持ちをのせて私たちに託して下さった皆さまに改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



担当 福田

「被災した当事者でありながら地域のコミュニティづくりのために立ち上がろうとする方々を応援することはできないか」という想いから生まれたのがこのプロジェクトでした。自治会や住民グループへの資金助成は一般的ではなく、私たちにとってもひとつのチャレンジでした。地元でともに暮らす財団だからこそ信頼関係を構築して無事に終了したプロジェクトだったと思います。

報告させていただいた 8 つの取り組みはどれも参加者の自然な会話や人と人の繋がりがうまれるとても暖かいものでした。これからしばらく続くであろう仮の住まいでの生活を楽しく乗り切るための一助になったのではないかと思います。引き続き、東北の被災地に関心をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

今回はご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

❀ 一般財団法人 地域創造基金みやぎとは

地域創造基金みやぎ(通称：さなぶりファンド)は、東日本大震災の発生を一つの契機として、(特活)せんだい・みやぎ NPO センターを母体に 2011 年 6 月 20 日に設立されました。震災復興を進める市民活動等への資金を仲介する市民コミュニティ財団です。地域の復興を願う人々の想いとともに関心事業を実施し、東北の復興と発展に貢献していきます。

❀ 発行・お問い合わせ

一般財団法人 地域創造基金みやぎ

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町 1-2-23 桜大町ビル 303

TEL : 022-748-7283 FAX : 022-748-7284

MAIL : info@sanaburifund.org URL : <http://www.sanaburifund.org>

2013 年 4 月発行

